

# カーボンレポート

## 東京都低炭素ビル実績表示

この書面は、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例に基づく「地球温暖化対策報告書」(都内の中小規模事業所を対象)により東京都に報告したCO<sub>2</sub>排出量の実績等を、地球温暖化対策指針に基づいて表示するものです。

No.A0861-0890

報告書提出  
事業者名

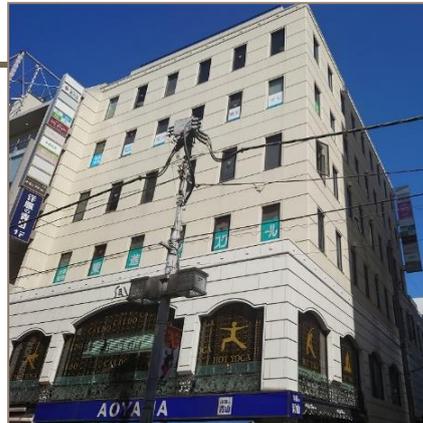
三菱UFJ信託銀行株式会社

事業所名

さいとうビル

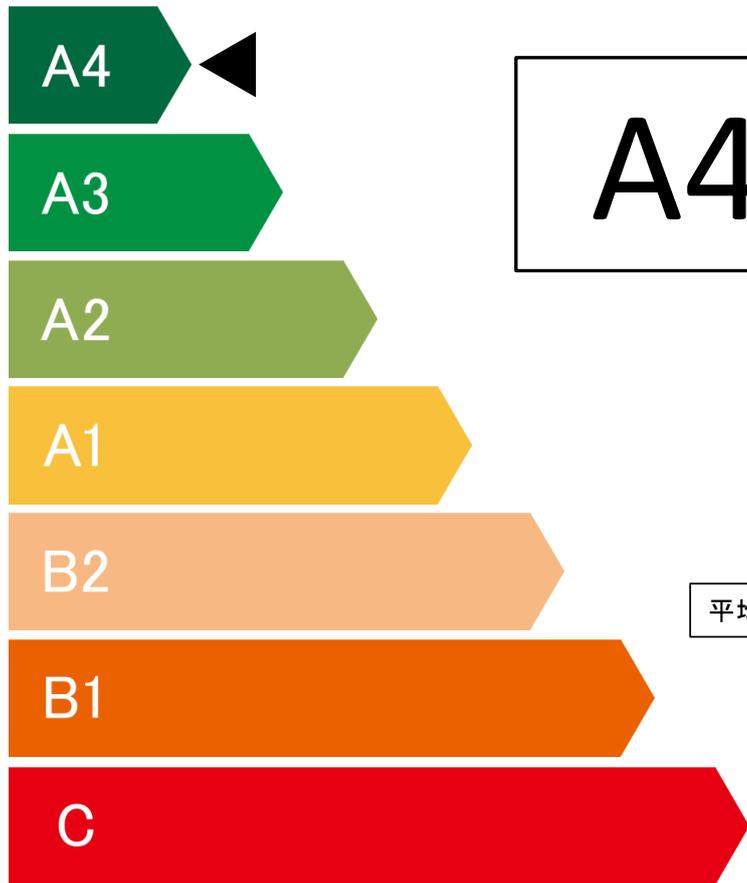
住所

世田谷区太子堂2-16-5



実績年度	年間CO <sub>2</sub> 排出量	延床面積	CO <sub>2</sub> 排出原単位 (延床面積当たりの年間CO <sub>2</sub> 排出量)	主たる用途
2021年	281 t	3,662.96 m <sup>2</sup>	76.1 kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	複合施設

### ベンチマーク区分:テナントビル(商業複合系、中規模)



ベンチマーク レンジ	CO <sub>2</sub> 排出原単位 (kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> )の範囲	
A4	~	96.2
A3+	96.2	~ 104.9
A3	104.9	~ 113.7
A3-	113.7	~ 122.4
A2+	122.4	~ 131.1
A2	131.1	~ 139.9
A2-	139.9	~ 148.6
A1+	148.6	~ 157.4
A1	157.4	~ 166.1
A1-	166.1	~ 174.8
B2+	174.8	~ 183.6
B2	183.6	~ 192.3
B2-	192.3	~ 201.1
B1	201.1	~ 262.2
C	262.2	~

※ベンチマークは、都内の中小規模事業所のCO<sub>2</sub>排出水準(CO<sub>2</sub>排出原単位の水準)を15段階で示す指標です。(詳細は、『自己評価指標(ベンチマーク)解説書』(東京都環境局発行)を参照)

※CO<sub>2</sub>排出水準は、ビル側の地球温暖化の対策の推進状況だけでなく、ビルの稼働状況や入居者の取組等の影響を含むものです。

※本書面の記載内容は、第三者の検証を受けたものとは限りません。また、報告書提出事業者の事業所範囲についての内容であるため、区分所有等の場合、基本的にビル全体の内容と一致しません。共有の場合は、持分割合に応じたものとなっています。

◆ 地球温暖化対策の実施状況

	重点対策	その他対策
	対策名	対策名
組織体制の整備	テナントにエネルギー使用量提供	
エネルギー等の使用状況の把握	自ら入手可能な情報に基づく把握	
	エネルギー使用量の前年度比較	
運用対策	空室・不在時等のこまめな消灯	
	空室・不在時等の空調停止	
	共用部照明のフロアごとの管理	
設備保守対策	ランプ等の定期的な清掃・交換	
	空調フィルターの清掃・点検	
設備導入対策	高効率照明器具の採用(屋内)	

上記は、本事業所が実績年度に実施した対策です。

◆ 補足説明(自由記入)

◆ 注記

ビルのCO<sub>2</sub>排出原単位(延床面積当りの年間CO<sub>2</sub>排出量)は、ビルの断熱性能、設備・機器のエネルギー効率及び運用・保守管理状況を、総合的に示すビルの省エネルギー指標です。東京都が提供するベンチマークは、中小ビルのCO<sub>2</sub>排出原単位の平均値を用途別・規模別に示しており、その平均値から個々のビルのCO<sub>2</sub>排出原単位がどの程度離れているかをみることで、当該ビルの低炭素レベル(省エネ性能)を評価することができます。

なお、ビルのCO<sub>2</sub>排出原単位は、空室率、駐車場や電算室の有無、稼働時間、入居テナントの種類や入居テナントのエネルギーの使い方等によっても影響を受けます。ベンチマークは、こうした様々な要因も含まれた平均値を示していますが、省エネの取組以外の要因が著しく大きい等の場合、評価者は、これらの要因がどの程度、CO<sub>2</sub>排出原単位に影響を与えているかを考慮する必要があります。詳細は、『自己評価指標(ベンチマーク)解説書』(東京都環境局発行)をご参照ください。